みんなの文芸

引間豐作選　投稿数21句

黒々と出羽三山や冬日落つ

三沢　長谷河ソノ

(評) 松尾芭蕉が元禄二年三月二十七日に「奥羽長途の行脚」へ旅立った。この記録が有名な紀行文学として知られている『おくのほそ道』である。そこに出てくる出羽三山とは羽黒山・月山・湯殿山を指し、それぞれの標高は羽黒山が四一四m、月山が一九八四m、湯殿山が一五〇〇m。今では車で手軽に行けるが、月山は万年雪をいただく高山であり、やはり三山は仏法の聖地と言われるように仏道修業のメッカであったに違いない。「黒」には玄（奥深い道理）のニュアンスが含まれているように思われる。

東雲の空紅に霜の朝　三沢　新井　民子

雪虫のふわり流るる曇り空　皆野　太幡真由美

音たてて木の実の落つる谷津の道　下日野沢　江野　鎰子

ブーケトス冬の光をあつめけり　皆野　井上喜美子

十二月八日「征きます」の声遥けしや　三沢　眞下　杏子

湖に沿ふてゆくバス冬ざくら　下日野沢　引間富美子

鉢巻を捲かれ白菜しゃんと立つ　皆野　引間　千鶴

里人の笑顔と出会う冬ぬくし　皆野　根岸　詩子

電話くる孫の予約はお餅つき　三沢　澤野　恒平

ななかまど紅でもてなす宿の庭　三沢　新井　弘延

白々とさざえの殻や冬花壇　下日野沢　髙山　ユウ

冬空に気球体験子等の声　皆野　関根　助市

中田久惠選　投稿数16首

東北の地震に逝きける霊しづめ師走の寺にさらふ御詠歌

三沢　新井　民子

(評) この歌の命は敬虔な心と祈りにある。非常に感動し秀歌とした。多くの災がもたらした三月十一日から九ヶ月が過ぎようとしている。だが遅遅として進まぬ復興、しかし季節は冬師走である。罹災した方々の苦労が偲ばれるが、「冬来たりなば春遠からじ」と念じてやまない。叶子さん、桜井さん全くその通り同感です。

今世は常に浮沈の巡り合いならば前向きに生きむと悟る　三沢　新井　叶子

われら皆目背けたきの多かれど背けまひぞと新聞を読む　皆野　桜井　早苗

帰り来てまず愛犬を抱く夫よ我のはなしに耳傾けよ　皆野　豊田喜美恵

子や孫の行く手に幸の多きこと願いつ夫と初春の社に　皆野　野口　貞子

厨辺に立てば現役手料理を一喜一憂八十路の味覚　皆野　新井　愛子

すこやかに育つ曾孫等十人を子煩悩なる亡夫に見せたし　下日野沢　浅見　豊子

老い知らず寒さに負けず畑仕事年の瀬迎う準備整う　皆野　関根　助市

病む姉の最期のほほに一粒の涙がつたう手でぬぐう我　三沢　鈴木　貞恵

はらからと父母偲ぶ伊豆の宿夢の世界にいつか落ちけり　皆野　根岸　詩子

保存修理成る彫り物の彩映ゆる権現造りの聖天さまに　三沢　眞下　杏子

山向こう初の雪だと聞きくれば今日の寒さも納得すなり　皆野　引間　万亀

かさこそと落葉を床にねころべばしばしまどろみ童にもどる　三沢　新井　弘延

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

8日必着

1人1句、1首に限ります。

1歳のお誕生日おめでとう

裕飛くん

根岸区
横田　隆行さん
　　真美さん
いつも笑顔の裕飛君。
お兄ちゃんお姉ちゃんと
元気に大きくなってね♡

雅姫ちゃん

上三沢区
関根　康秀さん
　　麻樹さん
にこにこ笑顔の可愛い、
明るく元気な子になって
ね♡

※満1歳の赤ちゃんを募集します。2月号の締め切りは、1月10日㈫まで。ホームページからも応募できます。